

琉球人火行列記  
全

2342







序

夫琉球國リウキウ自平北ひらきた西にし南みなみ小島こじま為な中ちゆう

薩さつ摩ま之の島しま音おん余よ四し里り海かい中ちゆうのの海かい

國くに也なり琉球リウキウ乃すなはち西にし南みなみ之の邊へ羅ら羅ら國くに

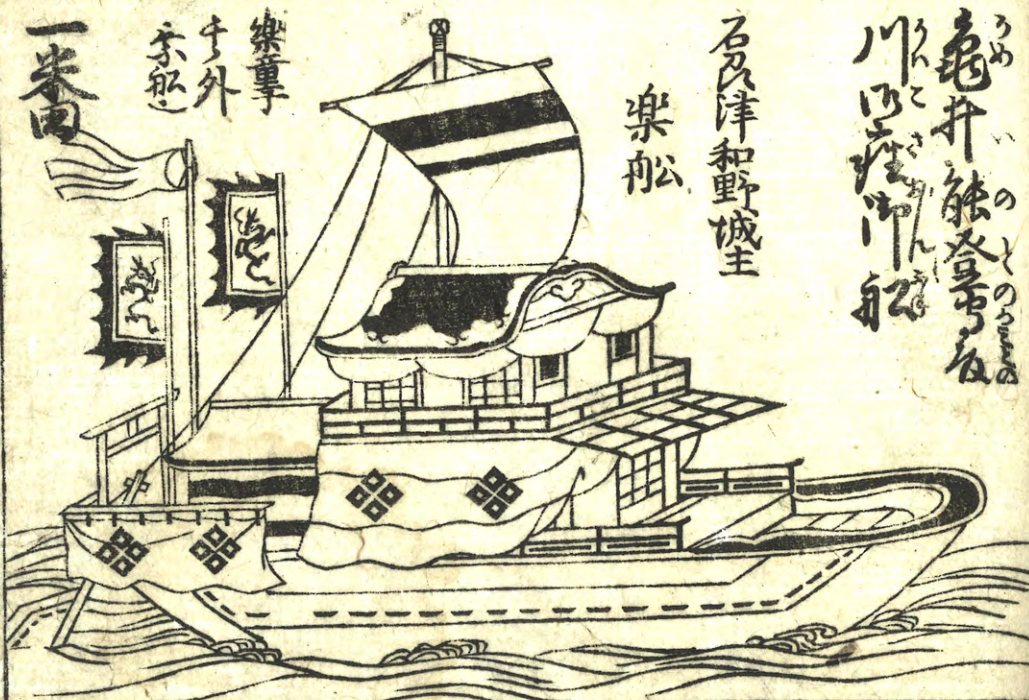
小こ島しま東北とうがく自より平ひら北きたににむむらら小こ

行ゆ程てい東とう南なん七しち日にち南なん小こ十じゅう

二に三さん百ひゃく四し百ひゃく名なのの海かい中ちゆう水みづ回まわ

琉球列島





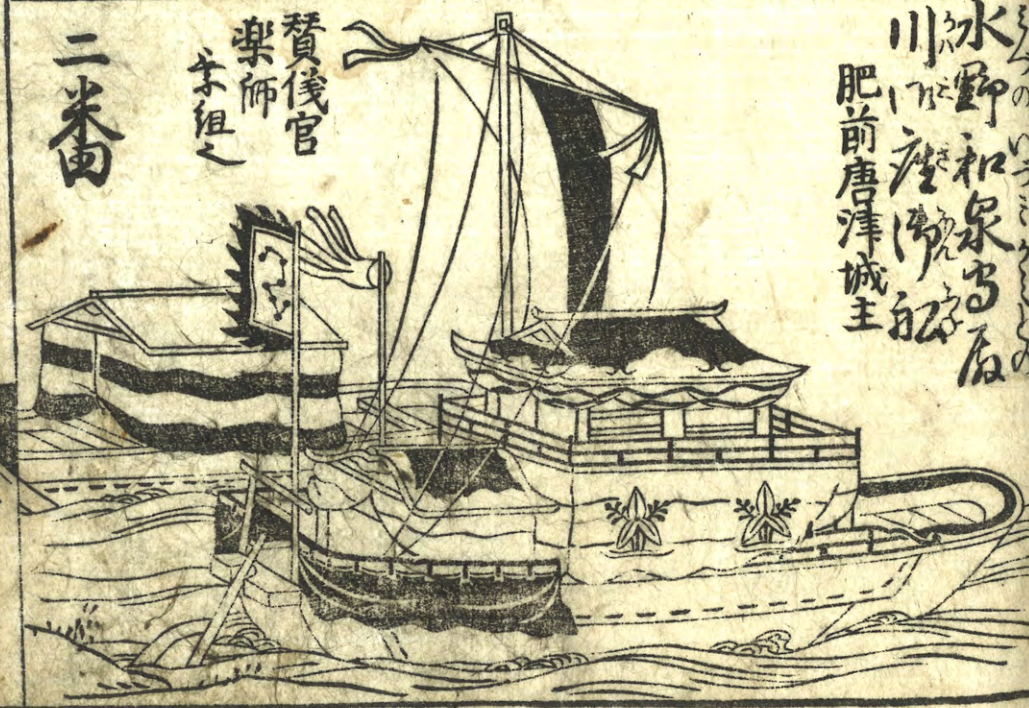
石見津和野城主

樂船

龜井能登重右衛門  
川内津中船

樂軍  
十外  
赤船

一番



水野和泉守重  
川内津中船  
肥前唐津城主

贊後官  
樂師  
赤船

二番

于時寛政二年戊戌歲

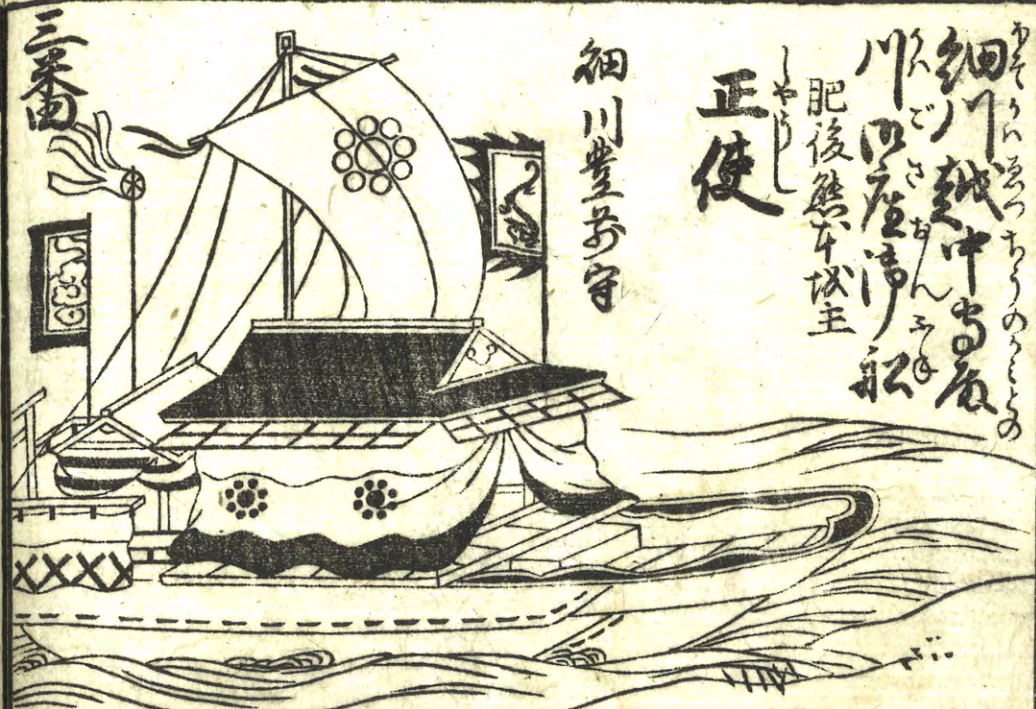
洛陽

辨裝堂

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百



細川越中守  
肥後熊本城主  
正使



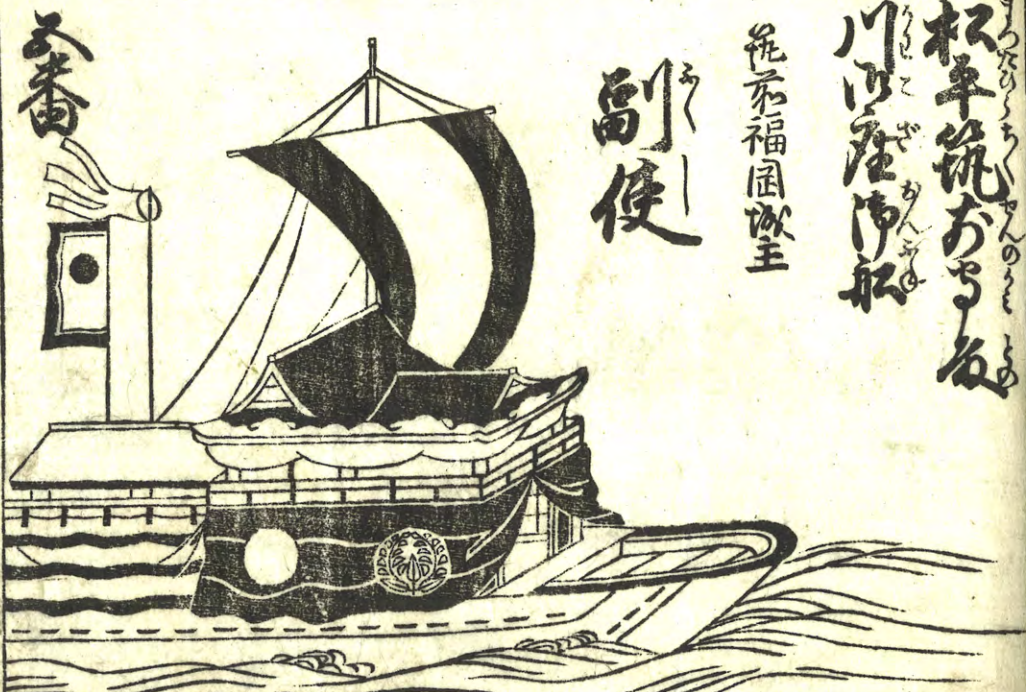
細川豊守

三番

松平筑方守  
川内座舟

尾形福園城主

副使

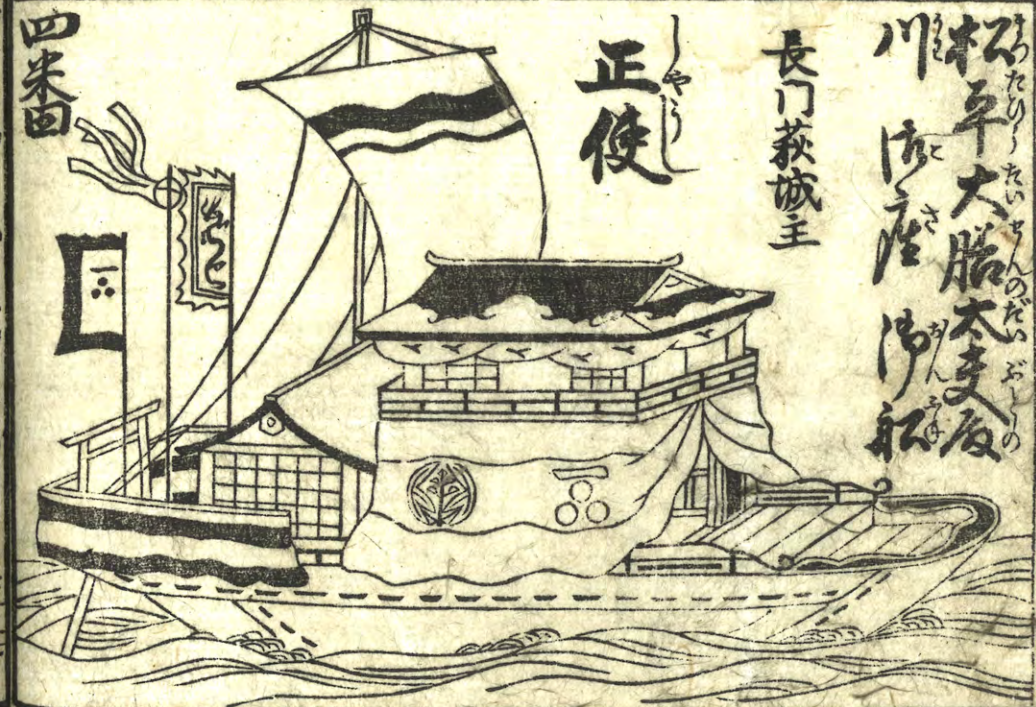


六番

松平大膳太夫  
川内座舟

長門萩城主

正使

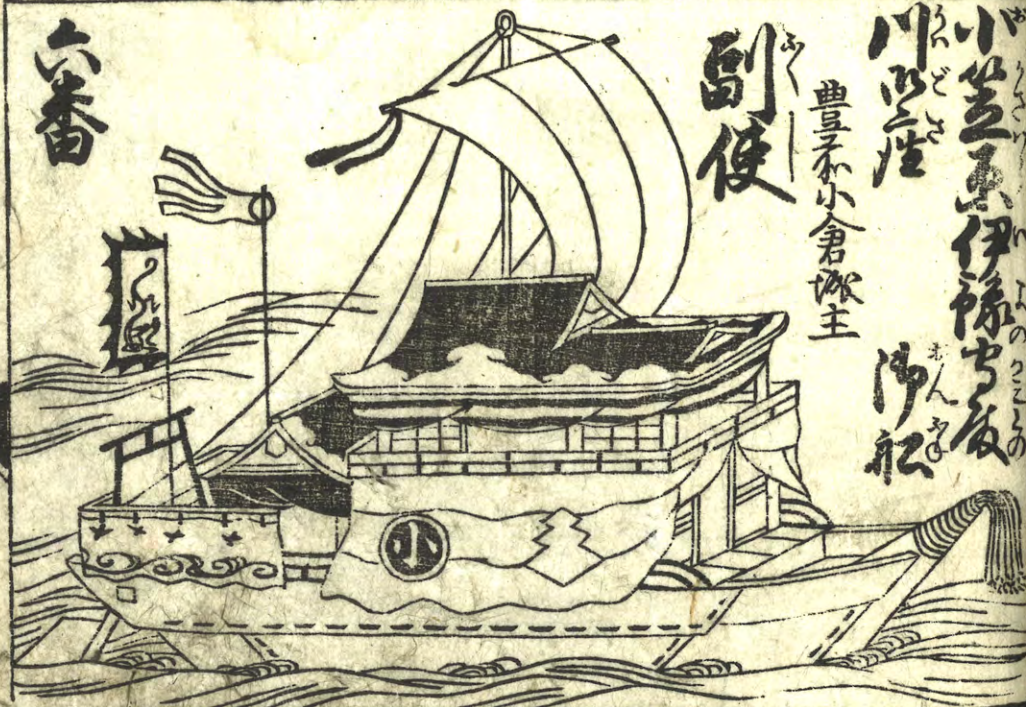


四番

小笠原伊藤守  
川内座舟

豊前小倉城主

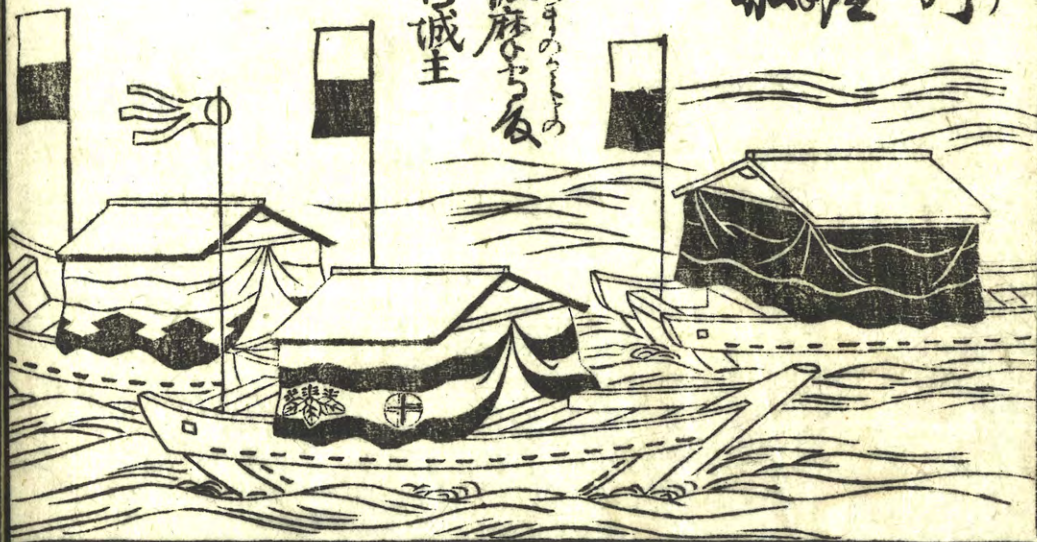
副使



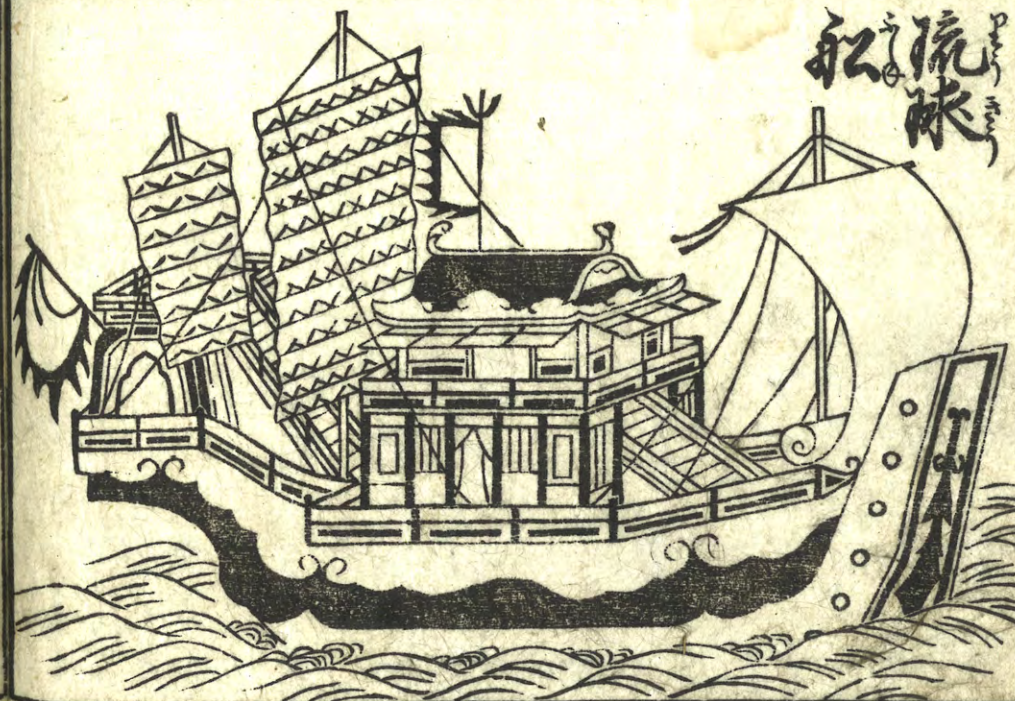


薩州 薩摩 船

松平薩摩守 加見修城主



琉球 船



人五百代

後陽成院 御宇 壬午 壬午

十八年 琉球を征伐し

より代末船に意を

おぼせし代末船に意を

日の平此國から

例子 村万高歳

幕朝之次第

嘉慶三年 九月 幕朝

寛文十一年 七月 幕朝

寶永七年 十月 幕朝

正徳四年 十月 幕朝

享保三年 八月 幕朝

寛延元年 十一月 幕朝

天明元年 幕朝

流求入行川大

四



琉球人列々

先<sup>せん</sup>の<sup>の</sup>教<sup>けう</sup>書<sup>しよ</sup>

は<sup>は</sup>の<sup>の</sup>挿<sup>さつ</sup>書<sup>しよ</sup>

ギ<sup>ぎ</sup>の<sup>の</sup>ひ<sup>ひ</sup>の<sup>の</sup>し<sup>し</sup>

た<sup>た</sup>て<sup>た</sup>の<sup>の</sup>傘<sup>かさ</sup>

又<sup>また</sup>の<sup>の</sup>し<sup>し</sup>の<sup>の</sup>け<sup>け</sup>



射<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ち<sup>ち</sup>の<sup>の</sup>げ<sup>げ</sup>の<sup>の</sup>や<sup>や</sup>

う<sup>う</sup>

う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>つ<sup>つ</sup>の<sup>の</sup>か<sup>か</sup>

お<sup>お</sup>の<sup>の</sup>し<sup>し</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>

鉄<sup>てつ</sup>の<sup>の</sup>砲<sup>ぱう</sup>





旗竿はたきざな

長刀ながやい

引ひき馬うま

凡たゞ一ひと人ひと敷しき一ひと人ひと

余あま有あり之の

之の次つぎ不ふ

琉球人りゅうきゅうじん

行い列れつ

琉球人りゅうきゅうじん

騎こ馬ば

下官一人げくわんにん





箱こ二こ

但た金い泥てい一い々い樂ら器き  
のの二に子こちち利り

琉球馬りゅうきゅうま 式しき足あし

但たううざざりりかかー

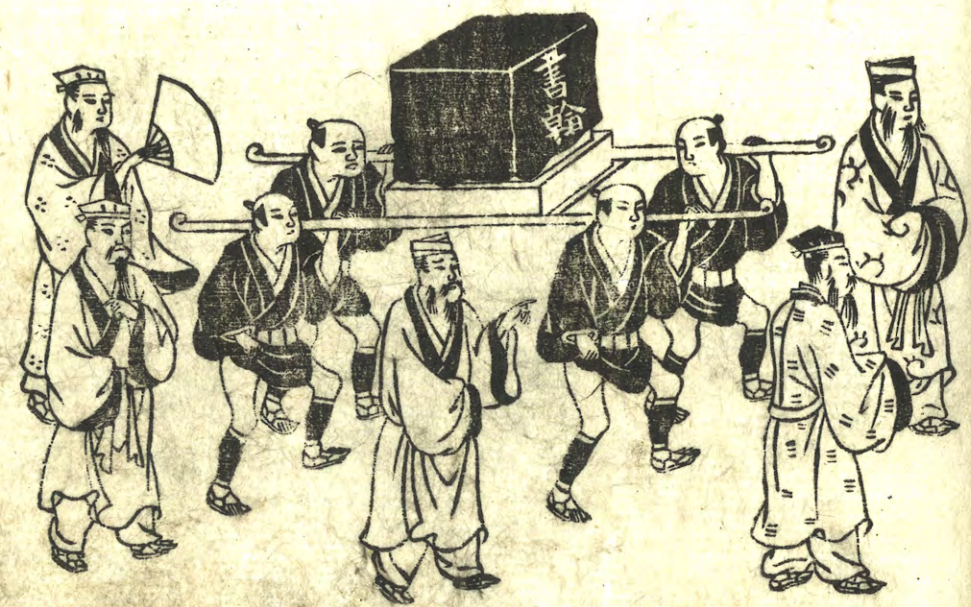
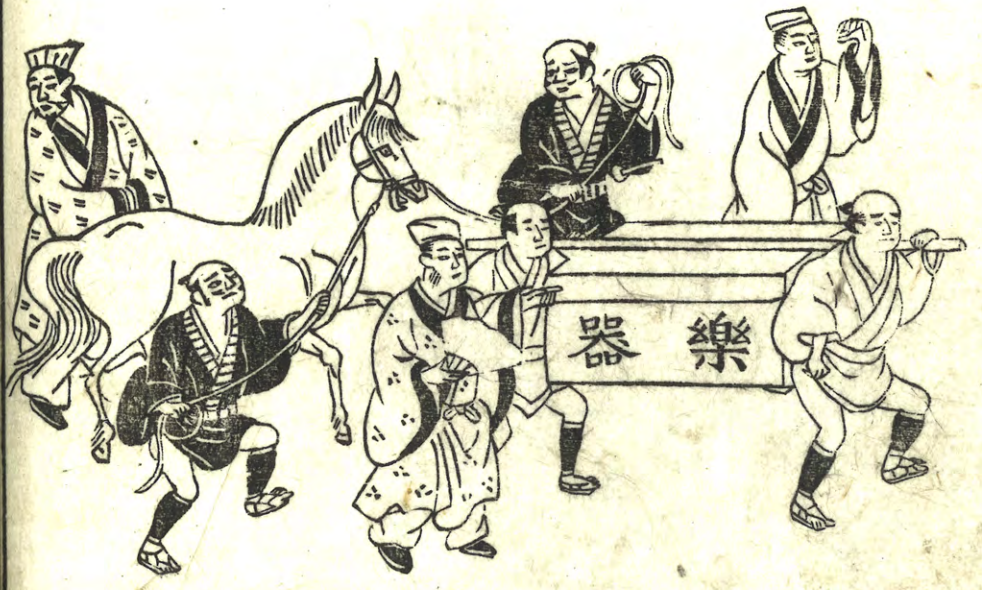
園師いんし 真喜屋親雲上まきやまのうぢ

源げん伴ばん 叔しやく多た

修しゆ人にんかかしし

書翰しよくわん 卷まき

但た比ひ玉たまにに白しろ字じととも  
減へんととののんんののりりなる  
ととののちちりり





書翰箱

右のり

昔年親史 大灣親雲上

祐筆

跟伴

二のり 教多

園師 去まを親雲上

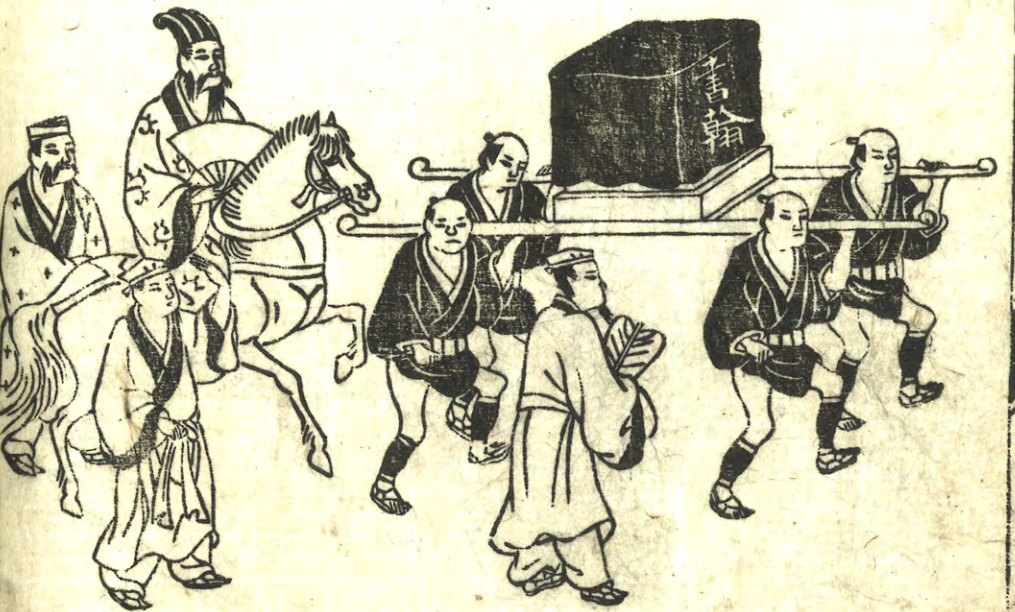
鞆

ふりあ

牌

二のり

板朱塗文字今泥



流求大行川大全



張旗 ちやうき

銅鑼 どうら

噴吶 ひらつな

喇叭 ちやうめら

鼓 たいこ

虎旗 このぼり

二行

兩班 りやうはん

二行

洞角 どうかく

二行 ふたぎ

二行

金鼓 きんこ



○流球入千川大

○形形入千川大



鎗つるぎ

新刀あらたなやいば

冷傘ひやうさん

二重小佛にじゅうせうぶつ

使役員しやくいん

九十こじゅう二に人にん程ほど  
但たゞ与よ力ちから役やくのものと

轎こし

正使せいし

宜野灣よしのわん王子おうじ

但たゞ有あ長なが冠かん也や

足あし伴ばん

役やく十じゅう人にん



流球人ナリト全

流球人ナリト全



質度使 しんめい

凡十四人 おんじゅうしにん  
小姓のよし こしやうのよし

牌 はい  
二行 にぎやう

板米冷少 いたまいひやうしやう  
又字前 またあざまへ 因 よ

銚子 しやうし  
龍刀 りゆうたう

冷傘 ひやうさん

むらうめん むらうめん  
ニまふ飾 にまふしき

正使之使質 せいしよのしよし

座喜味親雲上 ざきみおん  
彼平親雲上 かへいらおん  
伊渡山親雲上 いわたまおん





轎こしやう

副使ふくし

幸地ゆきぢ 親おや 方かた

但た 廣ひろ 衣い 冠かん 丈ぢやう

副使之使ふくし 贊さん

翁長おきな 和わ 宇う 慶けい 親おや 雲うん 上かみ

凡おほ 八やち 五ご 人にん 二に 乃なり

贊さん 議ぎ 官くわん

田里でんり 親おや 雲うん 上かみ

但た 疏しゆ 衣い 冠かん 丈ぢやう

正せい 使し 付つ 役やく 人にん



○流求大行川大

○流求大行川大



樂師

新川 親雲上

上原 親雲上

玉城 親雲上

伴江 親雲上

與世山 親雲上

樂正 識名親雲上

樂人の一と

樂童子 二乃

琉球の技と名

小波津里子 久間里子

後次里子 後堂里子

國政里子 後名里子

跟伴 教十人



琉球人テリシ大



儀衛正 兼本親雲上  
よみうら

治次樂正のや  
右琉球の衣冠

掌翰史兼ケ殿  
ふんはあんれ

徳業のよし

質度使

以列前田

跟伴

叔十人

主筆

但先と全系のどく  
ありものそつてむ



琉球人行列



副使

幸地 繼方

但唐衣冠より

使贊

凡八九人 征一

立傘

先のうさぎのくし



醫師 真喜屋

但琉球のいん

ちり

伴 救人

伴 救人





凡琉球人形百人余

但上中下官をもて

下落つて免さげよ

扇の御舞あはれ



音楽之次第

太常調樂

凡七人

桃屋御樂

右同

石堂仙

右同

楊香曲

式人

妻多子氣

同

長生苑樂

七人

琉球國より

沖江戸近行程七百七十里余

琉球より薩摩平麻里

三百里余り

振六里余大坂

道中宿

伏見宿

大津

弟津宿

水口

坂下宿

庄

四日市宿

赤松

宮

池



正蘭書樂

七人後者  
勅之

正月

右同

三線分

右同

右諸次行

右同

お勤中儀最於

相勤い書樂は書付の回有之

是ハ送以少くハ付と先中

中山王と献上同録

御馬一疋

中央卓 式脚

現履一疋 袴履一疋

羅紗懸子間 編細 卒友

湯芭蕉布 大指隔

湯芭蕉布 大指隔

睦芭蕉布 大十隔

古平布 百疋 久平湯紗 百疋

赤帯書 三寸香餅 式書

珍延香 二箱 池盛酒 十壺

以上

圓濟省

二川省

漢妻省

龜川省

菱枝省

江鹿省

吉束省

三浦省

小田原省

友沢省

川濟省

同極國省張部

江戸省

神志川省

友沢省

小田原省

三浦省

吉束省

江鹿省

菱枝省

龜川省

漢妻省

清波体

新居体

見付体

金吾体

九子体

神束体

管根体

大破体

彩高体

江戸

河濟体

大破体

箱根体

神束体

九子体

金吾体

見付体

彩高体



同献上目録

河馬一疋 ちうまはたけ 中央卓二脚

九中央卓 けん 二脚

籾飯 けん 一對

練芭蕉布 けん 又拾五

号芭蕉布 けん 又十疋

薄芭蕉布 けん 又十疋

右平布 けん 百疋

久米湯糸 けん 百把

泡盛酒 けん 又壺

以上

白次製着

吉田体

沖地着

忌着

地理着体

宮着

素着

冒市体

石業着

土山体

関着

水口着

茶着体

大津着

伏見着

是よりまき糸の晒れり烈む

此地芭蕉の工

中山より

清着極上柄

素着帯香 けん 十箱

秀延着 けん 平袋 八人形 式許

玉風着 けん 一箱 料糸第一通

吹管 けん 一通り

純子 けん 式括子

右平布 けん 又拾疋

緩縮子 けん 又十疋

泡盛酒 けん 又壺

以上

正使自分分々献上

素着帯香

官着

右平布

薄芭蕉布

泡盛酒

以上

十箱

式許

一箱

一通り

式括子

又拾疋

又十疋

又壺

以上



同 献工との

うもと

又ふけ

右とて

外帳

石屏

一對 卓 三具 一面

茶飯 此全

二

紅らりめん

三十疋

白端綿

二十疋

芭蕉布

六拵 反

久米清紗

三十把

泡盛酒

三壺

以上

正使 自分の献上

官香

拵把

香餅

又拵

練芭蕉布

拾疋

鴻芭蕉布

拵拵

泡盛酒

三壺

以上

中山王の上

東叡山官帳の

香餅

六箱

官香

一拵

珠茶卓

二脚

芭蕉敷帳

二張

石屏

泡盛酒

三壺

以上

正使 自分の献上

東叡山官帳の

官香

一拵

赤心香

一拵

以上

沖之家帳の進上

香餅

一拵 拵

官香

一拵 拵

古平布

又足

芭蕉布

拵 反

泡盛酒

三壺

以上



琉球洋

よいとと  
 人さふとと  
 城のいとと  
 うそと  
 ころいとと  
 おととと  
 こいとと  
 めいとと  
 ひんとと  
 ちいとと  
 ちいとと  
 いいとと  
 まいとと  
 もいとと  
 りいとと  
 べいとと  
 べいとと  
 いいとと  
 ちいとと

琉球人凡数百人余  
 薩州人教士下二千人余  
 人定小音人馬小音足  
 薩州人六百八人  
 川沙産四艘 六艘  
 上高船 百廿拾艘  
 船引 百艘  
 舟人 小音人  
 外  
 諸大名人教士凡数百人  
 山々

金鼓ノ二字有  
 併 金ノヤケ

長サ八寸幅一寸五分  
 板まうやう



新虎  
 併 取てぬい

唐笛四人  
 長サ六尺四寸

小笛八人  
 長サ七寸



仲山符  
 仲山符

三寸官人  
 併 家老織  
 琉球少佐

イマキジン  
 六人  
 小村のり

薩州

御家老 嶋津 石見殿  
 御側御用 小部 八左衛門殿  
 御用人 佐藤院 草野殿

明和元年  
 今寛政三年



環珞人行系九全

寛政二年戌九月

御免板行

書肆

江戸日本橋

前川六左衛門

大坂中津橋

塩屋喜助

京四條西

坪坂屋辰助

6 =



